

25年連続で食味ランク『特A』を獲得し続けている魚沼米の基本価値である品質・食味の向上を目的にシリーズで掲載してきた『土づくり』特集もまとめとなりました。26年産の栽培管理の振り返りとともに土づくりの実践状況も確認しましょう。

土づくりによる天候に左右されない頑丈な稲づくりの実践！

土づくりは、異常気象に負けない『頑丈な稲づくり』を重点項目としています。平成25年度は『倒伏』による品質低下が見られましたが、今年度は適期田植え・適期中干しの実践により管内の倒伏状況は昨年より改善されました。しかしながら、草丈・茎数などは天候により大きな影響を受けますので、引き続き土づくり資材の散布や深耕15cm以上を目標に地域一丸となり土づくりに取り組みましょう。

土づくりは減々栽培を支える基本技術！

北魚沼管内では、安心・安全な農産物の供給のための減々栽培の取り組みが広がっており、慣行5割、特栽は8割へとステップアップが進んでいます。有機質肥料は化学肥料に比べ即効性がないため、土づくりによりしっかりと養分を吸える元気な根っこを育てることが重要です。

土づくりは食味・品質の向上から物語へ！

消費者の皆さんは多くの産地・品種がある中で、どれを選ぼうか悩んでいます。土づくりは、品質・食味などの『基本価値』の向上に加え『物語』として消費者へ北魚沼産コシヒカリを手にするきっかけを与えます。テレビで紹介されるような棚田や昔ながらの手作業のほ場だけが物語ではありません。土づくりなどの地道な作業も立派な物語として消費者へ好感を与えます。

無料土壌診断受付中!!

J Aの土壌診断には費用は一切かかりません。

土壌の採取方法（自分で土を取って乾かし粉末状態にする）

1. 土壌採取は収穫終了後、秋肥料散布前とし、早期に実施。
2. 1つの圃場5カ所から採取した作土を混ぜ、直射日光を避けて乾燥させる。
3. 土以外の異物は除去する。（選別用の「ふるい」貸出できます。）
4. 最寄りの営農センターへ10月末日までに持ち込む。（厳守）

※分析点数は、原則として1生産者1圃場分析でお願いします。

※分析後は、簡易土壌診断書（処方箋）を発行します。（2月頃配布予定）

分析希望者は、必ず営農センターまでお越しください。

土壌採取方法から営農センター持込みまでの注意事項と必要な提出書類があります。